

ウニ殻ランプできた!

高浜町沖合の藻場を荒らすムラサキウニを利活用しようと、高浜小6年生と地元のまちづくりグループ「高浜明日研究所」（明研）が制作してきたウニの殻のランプ「UNIKARA」（うにくら）が完成した。ウニの穢氣なから光が漏れ、幻想的な雰囲気を醸し出す逸品に仕上がった。

31日から町内のシーフードマーケット「UMIKARA（うみから）」で販売する。（石川悠樹）

みんなで
読もう



ムラサキウニの殻を活用したランプ「UNIKARA」を手にする児童=11日、高浜小

ムラサキウニは、魚が離れたり産卵に使う藻場を食い荒らすため、地元住民に駆除・廃棄されている。

同校は明研とともに、地陸に揚げ死なせた後、2週間ほど海に戻して海中の微生物にトケを食べさせた。

大きさは、小サイズ（約4cm）、中サイズ（同5cm）、大サイズ（同6cm）を用意。小サイズは、カブセル玩具販売機「ガチャガチャ」に入れてうみから

月から、ウニの殻を使ったランプ作りに取り組んできた。

ロゴマークも作成。さまざまな色に光るランプのイラストに「UNIKARA」の文字を書き込んでいる。

明書や、中・大サイズのランプを入れる箱にロゴをあしらい、地元住民や観光客にアピールする。

磯引蓮汁君（6年）は「1年間の活動成果が形になりました」と話していた。31日には、小サイズ30個、中サイズ10個、大サイズ10個を用意する。問い合わせは、はもと加工販売所=0770（72）4